

米国 製造業部門の拡大ペース鈍化（11年7月ISM製造業景気指数）

発表日：2011年8月1日（月）

～輸出が拡大しているものの、国内需要の鈍化や債務上限問題が足かせ～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM製造業景気指数は50.9と前月比4.3%ポイント低下

7月のISM製造業景気指数は、50.9と市場予想を下回り前月比4.3%ポイント低下した（市場予想中間値54.5、筆者予想53.2）。国内需要の鈍化や債務上限問題に伴う発注の遅れを背景に、新規受注が縮小に転じるなど製造業部門の拡大ペースは鈍化した。輸出が堅調さを維持し拡大縮小の分岐点である50を25ヵ月連続で上回り拡大しているが、50付近まで低下したうえ、拡大した業種数も10業種（前月12業種）と減少した。ただし、新規受注・在庫比率が上昇するなど、景気指数の低下に歯止めがかかる兆しもみられる。

総合指数への構成項目別の寄与度をみると、雇用（前月比▲1.3%ポイント）、入荷遅延（同▲1.2ポイント）、在庫（同▲1.0%ポイント）、新規受注（同▲0.5%ポイント）、生産（同▲0.4%ポイント）と全項目が押し下げ寄与となり、総合指数は前月比▲4.3%ポイント低下した。

ISM統計発表直後の市場の反応をみると、同統計が市場予想を大幅に下回ったため米景気の先行き懸念が強まり、株価、10年債利回りは低下した。為替市場ではドルは対円で弱含み、一時1ドル=76.30円をつけた。

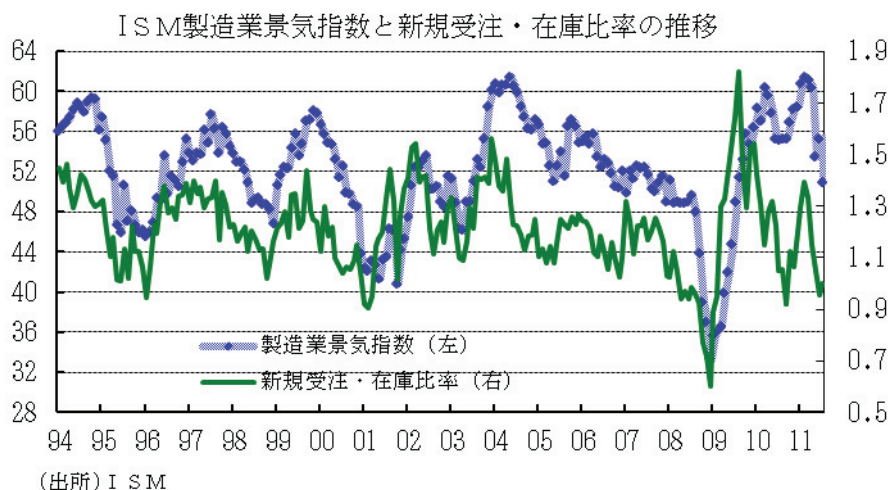
ISM (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
10/10	56.9	59.9	61.4	57.9	53.2	52.3	46.0	71.0	60.5	51.5
10/11	58.2	59.6	58.2	59.0	56.1	58.1	46.0	69.5	57.0	53.0
10/12	58.5	62.0	63.0	58.9	51.8	56.7	47.0	72.5	54.5	50.5
11/01	60.8	67.8	63.5	61.7	52.4	58.6	58.0	81.5	62.0	55.0
11/02	61.4	68.0	66.3	64.5	48.8	59.4	59.0	82.0	62.5	55.0
11/03	61.2	63.3	69.0	63.0	47.4	63.1	52.5	85.0	56.0	56.5
11/04	60.4	61.7	63.8	62.7	53.6	60.2	61.0	85.5	62.0	55.5
11/05	53.5	51.0	54.0	58.2	48.7	55.7	50.5	76.5	55.0	54.5
11/06	55.3	51.6	54.5	59.9	54.1	56.3	49.0	68.0	53.5	51.0
11/07	50.9	49.2	52.3	53.5	49.3	50.4	45.0	59.0	54.0	53.5

ISM製造業景気指数の低下傾向に歯止めがかかる兆し

今後に関しては、トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が11年2月をピークに低下しており、循環要因で当面低下傾向を辿ることを示唆している。ただし、7月にこの比率が上昇に転じており、低下トレンドに歯止めがかかる可能性がある。ISM製造業景気指数は、世界的な景気拡大による輸出の増加や、世界的なハイテク需要の拡大等によって基本的に50を上回って推移すると見込まれる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



輸出の堅調持続を示唆

輸出受注D Iが7月に54.0と前月比0.5%ポイント上昇し、拡大縮小の分岐点である50を上回っている。新興国経済などの堅調やドル安の効果等によって、米国輸出は拡大基調を維持していることが示唆されている。

各国の米国向け輸出は一時的に鈍化する可能性

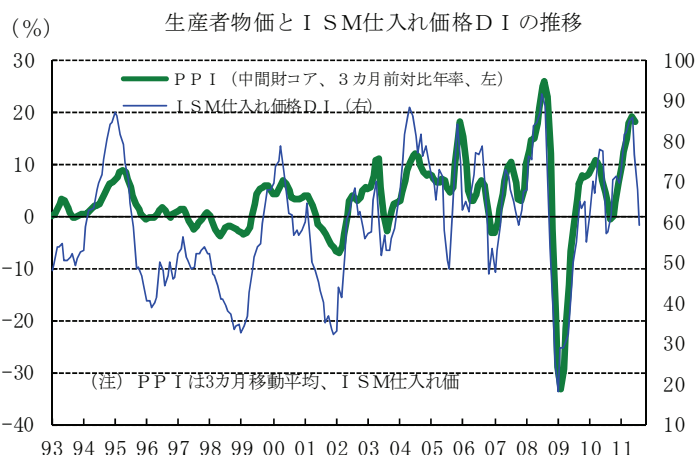
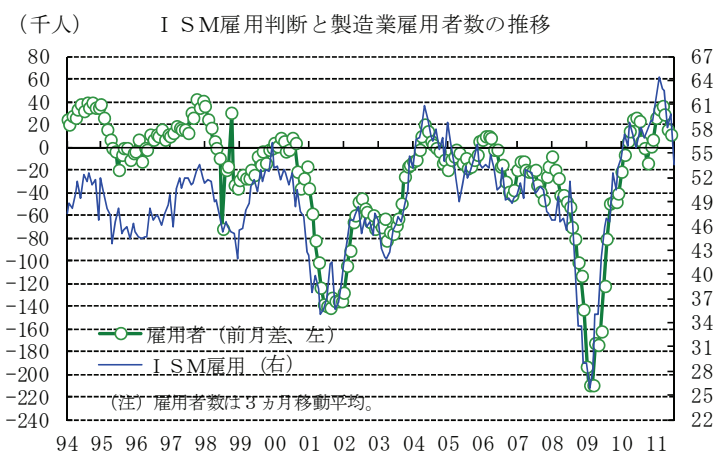
輸入D Iは7月に53.5と前月比2.5%ポイント上昇、輸入の再加速が示唆されている。一方、新規受注D Iが49.2と低下し50を下回ったことから、先進各国やB R I C Sなど新興国の米国向け輸出は一時的に鈍化する可能性がある。

雇用D Iは53.5と製造業雇用の拡大ペース鈍化を示唆

雇用D Iが53.5と前月比6.4%ポイント低下したことから、製造業雇用者数は3ヵ月移動平均で増加ペースが鈍化すると見込まれる。価格競争の激化する中でコスト削減圧力が強く、製造業部門での雇用の急速な回復は期待できない。

仕入価格D Iは59.0まで低下しており川中でのインフレ圧力の弱まりを示す

仕入価格D Iは、59.0と前月比9.0%ポイント低下した。景気減速感の強まり、先物市場での証拠金の引き上げ、I E Aによる戦略備蓄放出などを背景としたエネルギー・商品価格の下落によって、川中でのインフレ圧力は弱まっている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。